

「2023年度中国・浙江大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学法学部1年 松島 光佑

- ① 学習成果に関しては、中国語をはじめとした英語以外の言語学習への意欲が上がったということが一番の変化です。今までは英語圏の国にしか行ったことがなかったこともあり、留学前は、「中国は英語圏ではないにしても、少くくは英語が伝わるだろう。困ったら英語が役に立つだろう。」と考えていました。しかし実際のところ、現地では全くと言っていいほど英語が通じず、とても困りました。やはり、その国の言語で話すことの必要性を感じ、世界は英語だけではないと感じました。また、現地大学のクラスメイトが世界中から来ていたということも中国語学習意欲向上につながりました。同じクラスにはタイ、インドネシア、韓国、中にはアメリカの方まで幅広くいました。中国語を世界の人々が学びに来ているなんて思ってもいなかったので、驚きました。中国語を世界が求めているんだと感じ、中国語の学習意欲が上がりました。

また、中国に対する印象が変わったことも大きな変化の一つです。日々日常のニュースから、中国は経済や科学技術の発達した、いわゆる「先進国」だと思ってきました。しかし実際に中国を二週間見てみて、中国は実は発展途上国なのではないかと感じたのです。確かにオンライン決済の普及や、交通インフラの発達など、素晴らしい技術を取り入れていると感じる部分もありました。一方で、生活環境、公衆衛生などにおいては、先進国とは言えない状況だと思いました。まず最初にびっくりしたのはトイレの環境です。駅やショッピングセンター、大学内などにある公衆トイレは、異臭がしたり、きちんと掃除がされていなかったりと衛生環境がとても悪かったです。また道を歩いても、あちらこちらに灰殻やゴミのポイ捨てが放置されていました。さらに、都市による生活環境の違いも見られました。杭州の人々がジャージやスウェットを着ている中、上海の人々を見てみると、明らかに杭州の人たちよりも高級な服を着ていました。また上海の綺麗な街並みの一部にはボロボロのアパート街があるのにも驚きました。日本では見られないような違いが見られました。

- ② 現地での中国人の方との交流が印象的でした。その交流の中で驚いたのは、中国人のおもてなしの仕方です。食事や買い物の時には「自分が払うよ」と言ってくれたり、毎回フルーツをくれたりしました。日本人のするおもてなしには、その場所を綺麗にして出迎えたり、相手が帰る時には近くまで送っていったりするなど、どちらかというところ「気持ちで見せるおもてなし」というイメージですが、中国の方々のおもてなしはどちらかというところ「物をあげるおもてなし」という印象でした。たくさん物をくれるので、自分にとっては少し申し訳なく思いました。文化の違いだと感じました。
- ③ 勉強と文化体験とのバランスの取れたいいプログラムだったと思います。大学での授業では、中国語の難しさを感じながらも、なんとか食らいつくことで中国語力が伸びたと思いますし、世界中の留学生と交流するいい機会になりました。また自由時間の観光もとてもいいものでした。中国のリアルなところを見て感じる事ができました。日本にはないモノ、習慣、文化があることを発見していくのがとても楽しかったです。同じプログラムで来ている仲間たちとのいい交流の場にもなりました。
- ④ 今回の留学による進路への影響はあまりなかったですが、もっと色々な世界を見てみたいと思うようにはなりました。海外での滞在では日本にはないものを発見する事ができたと同時に、日本をより理解する機会にもなりました。海外に自由に行ける大学生のうちに、旅行でも留学でも海外を旅していこうと思います。今回は貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。